

特集

震度6弱の余震2回 いわき市、復興「振り出し」



再び広い範囲で断水し、給水所で水を確保する市民＝14日午前10時、いわき市平

今月11、12日と連日、震度6弱の地震に見舞われた福島県いわき市は、14日も広い範囲で断水が続いている。市役所業務の一部が休止しており、東日本大震災後、落ち着きを取り戻しつつあった市民生活に再び支障が出ている。

市役所は14日、1階の市民課などが隣のいわき芸術文化交流館「アリオス」への引っ越し作業を始めた。震災で床や柱に亀裂が入ったり天井の一部が落下したりするなどの被害を受けており、今回の余震で被害が拡大したためだ。

18日にはアリオスで業務が再開できる見通したが、市役所内の業務はそれまで当面休止。支所などで戸籍以外の業務を行う。

震災で断水した水道はほぼ全域で復旧していたが、2度の余震によって全13万世帯のうち10万世帯がまた断水し「ゴール手前で振り出しに戻された」（市水道局）。断水は14日までに4万5000世帯まで減った。水道局は「今後10日間ほどで復旧できる」と見込むが、山間地では難航も予想される。

11日の余震では停電が発生。13日夜には、大きな余震がないにもかかわらず約1万2000戸が停電した。間もなく復旧したが、東北電力福島支店によると、「地震の影響なのか施設の不具合なのか、原因を調査中」だという。

連日の余震によって、10日には2500人だった市内の避難者は、13日に3400人に増えた。11日の余震直後には、ガソリンスタンドに再び行列ができた。

市内の小中学校は15日まで休校となり、校舎などの点検を進めている。震源域に近い市南部では被害が出ている可能性もあるという。

2011年04月15日 金曜日